

月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

March 3
2022

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年3月1日発行(毎月一回1日発行) 第771号

● 出会い・本・人

事典という知の宝庫 山野貴彦

● 特集 悔い改めを学ぶには

この三冊！ 小泉 健

● 本・批評と紹介

三浦綾子文／おちあいまちこ写真／林あまり解説

三浦綾子 祈りのことば 森下辰衛

N・T・ライト著／大宮 謙訳

N・T・ライト新約聖書講解1

すべての人のためのマタイ福音書1 1-15章 大島 力

柳田敏洋著 神を追いこさない 市原信太郎

梅津順一著 ヴェーバーとフランクリン 小檜山ルイ

吉岡契典著 教会政治の神学 澤 正幸

金子晴勇著 キリスト教思想史の諸時代IV 濱 和弘

吉田裕子著 海のかなたに行き着こうとも、そこに 辻 哲子

渡辺英俊著／大倉一郎編

書き遺す神学へのメモ【増補版】 佐藤幹雄

深田未来生、木村利人著

ボクたちは軍国少年だった！ 後宮敬爾

● 本の紹介

瀧口俊子、大村哲夫、和田 信編著

共に生きるスピリチュアルケア 柏木哲夫

近刊情報

書店案内

青山学院大学の営みを支える、祈りのアンソロジー

大学の祈り 見えないものに目を注ぎ

2022年2月22日刊行予定

青山学院大学宗教学主任会 編著

青山学院大学では入学式・卒業式から学長選挙、箱根駅伝祝勝会にいたるまで多くの学内行事で祈りがささげられている。それらの祈りと共に、食事の前、就活の途上、あるいはパソコンの調子が悪い時などにささげられた祈りを多数収録。祈りについてのユニークな入門書。

◆四六判 並製・128頁・定価1,320円



推薦のことば

原晋 (青山学院大学陸上競技部監督)

お祈りは戦いを前に心落ちつかせ、戦術を整理する時間でもある。全ての活動の場でのお祈りで青学大駅伝チーム選手の心が磨かれています。パワフル大作戦の原点はここにあり！

『信徒の友』に掲載された信仰詩などを収めた詩人 中山直子の詩文集

二羽の小鳥 信仰の尽きぬよろこび

中山直子 2022年2月25日刊行予定

内村鑑三に師事した祖父のこと、旧ソ連に家族で暮らしたこと、ミッションスクールの大学教員として教壇に立ったこと、詩をとおした韓国との交流……。すべては主の御計らいであった。詩人、中山直子が詩とエッセーで主の恩寵をうたいあげる。

◆四六判 上製・186頁・定価1,980円



推薦のことば

小島誠志 (日本基督教団久万教会牧師)

中山直子さんの詩は天に土台が据わっているのです。地上のすべての出来事はどんなに不条理に見えても、悲しくても天からの光によって浄化されるのです。



事典という知の宝庫

——山野貴彦

私は神学校や大学の授業において、分からないことがある場合にはまず事典を参照するようお勧めしています。それはかつて学生時代に私自身も先生方から教授されたことなのですが、

眼前にあるテキストに対し一定の知識・理解がなければ学びを深めることは適わないからです。その語や概念がどのような歴史的背景を有しながら用いられてきたか、それを私たちは現在私たちの文脈をふまえてつづつのように理解するか。事典によって重要な基礎知識を獲得し、そこに示されている参考文献を通してさらに専門的な学びの道を広げてゆく、そのくり返しにより様々な知見が蓄えられてゆきます。

以前、私は立教大学在学中に「ヤコブ文庫」という、日本聖公会の書籍購入支援プロジェクトの支援を受けて『旧約新約聖書大辞典』および『ギリシア語新約聖書釈義事典』を入手することができました。聖書学における重要な基礎文献を自分の本棚の、手に取りやすい場所に納めた時の嬉しさは今なお鮮明に

記憶に残っていますし、現在も研究室に置き、授業準備のためなどに用いています。

ドイツ・テュービンゲン大学への留学時に、膨大な蔵書数を誇る神学部図書館で TRE、NBL、NEA/EH、RGG、JUDAICA などの基礎文献をはじめ、数々の事典から知識を得ることができたのは私にとって大きな学問的財産となりました。伝統的に神学が大切にされている国々においては百年にわたる事典刊行プロジェクトも珍しくありません。既刊も適時改訂されてゆきます。そのような伝統に倣い、日本の神学界の今後における発展のためにも、神学を志す方々に知的刺激を提供する日本語による優れた事典類がますます揃ってゆくことを、また、私が学生時代に重要な事典を自分の本棚に置いたあの時の喜びを味わうことができるようこの国における学びの支援環境がさらに整えられてゆくことを、願ってやみません。

(やまの・たかひこ 聖公会神学院専任教員)



悔い改めを学ぶには

▼この三冊！

小泉 健

(こいずみ・けん・東京神学大学教授、日本基督教団成瀬が丘教会牧師)

悔い改めるとは、自分自身と自分の罪から離れ、神に立ち帰ることです。ですから、神を信じることでそのものと深く結びついたことであり、わたしたちの信仰生活の土台をなしています。わたしたちは悔い改めて洗礼を授けていただき、悔い改めをもって礼拝をささげ、また聖餐にあずかります。わたしたちの日々の歩みもまた、悔い改めの歩みです。マルティン・ルターのいわゆる「九十五箇条の提題」の第一提題を思い出します。

「私たちの主であり師であるイエス・キリストが、『悔い改めなさい……』と言われたとき、彼は信じる者の全生涯が悔い改めであることをお望みになしたのである」(『ルター著作選集』教文館)。

それほど大切なことなのに、悔い改めるとはどういうことなのか、わたしたちはいつもわからなくなります。自分で自分を裁き、自分の力で自分をきよめようとする誤りと、どうせ自分にはできないのだと言いつつ、悔い

改めなしに生きてしまう誤りとの間で、途方に暮れています。D・ボンヘッファーが「安価な恵み」について語った言葉を胸に刻みたいと思います。

「安価な恵みは、悔改め抜きのみ洗いの宣教であり、教会戒規抜きの洗礼であり、罪の告白抜きのみ聖餐であり、個人的な告解抜きの赦罪である。安価な恵みは、……生きた・人となり給うたイエス・キリスト不在の恵みである」(『キリストに従う』新教出版社)。

悔い改めを改めて学び、自分のこととして受け取りたいと思います。

近藤勝彦『しかし、勇気を出しなさい』

悔い改めは、ただ後悔したり、改善をはかったりすることとは違います。「改心」とも違います。悔い改めとはそもそもどういうことなのかを、まず聖書から聞きたいと思えます。

旧約聖書で「悔い改める」ことを指

すもつとも重要な語は「シユープ」です。「出発点に戻るために向きを変え

る」という意味です。聖書では「立ち帰る」などと訳されます。旧約聖書の「シユープ」については、W・ブルツ

ゲマン『旧約聖書神学用語辞典』(日本キリスト教団出版局)の「悔い改め」の項目で学ぶことができます。

新約聖書で「悔い改め」と訳されているのは「メタノイア」ですが、聖書ではこの語にも「シユープ」の意味合いが込められています。新約聖書の「悔い改め」についてたいへん教えられるのは、J・シユニーヴィントの「イエスは復帰ということをどのよう

に理解されたか」です。『放蕩息子』(新教出版社)に収録されています。

(残念ながら現在品切れです。同じ主題の論文「福音的メタノイア」は『旧約聖書の一つの使信』新地書房に収録されています。出版社がなくなった

ため、こちらでも入手不能です。) シユニーヴィントは、「悔い改め」とは神に立ち帰ることであることを明確にし、さらに、主イエスが近づいてきてくださり、罪の赦しへ、永遠の救いへ、主イエスと共に生きることへと招いてくださるのだから、悔い改めの呼びかけそのものが喜びの知らせなのだと言います。

旧新約聖書を貫いて、神はわたしたちと呼びかけ、ご自分のもとに帰るようにと招いておられます。神に帰ることとは、神なしに生きることから決別し、神にお従いして生きることです。信じることとは生きることの全体に現れ、福音は倫理となつて形作られます。説教において倫理的な勧めをするのではなく、福音を告げることには徹しながら、福音そのものが倫理的な力をふるって聴き手を生かすことを目指しているのが、説教集『しかし、勇気を出しな

さい』です。本書の中には「悔い改め」と題する説教も収められています

が、この説教だけでなくどの説教も、聖書的な意味での悔い改めが起きることを目指して語られています。

(説教では、カール・バルト「回心」もお勧めです。『カール・バルト説教選集12』「オンデマンド版」日本キリスト教団出版局、所収です。)

ジャン・カルヴァン『キリスト教綱要(改訳版) 第3篇』

聖書が語る「悔い改め」の意味を確かめ、自分自身への神の呼びかけを受け止めました。その上で、「悔い改め」とは何であるかについて、さらに考察を深めましょう。悔い改めはわたしたちの救いの歩みの一部です。ですから、教義学のテーマの一つです。「ハイデルベルク信仰問答」においては、第三部「感謝について」の冒頭、問88から

問91で扱われています。「悔い改め」についての章を設けている、牧田吉和『改革派教義学5 救済論』（一麦出版社）など、教義学の書物や事典を繙くこともできましよう。

ここでは、『キリスト教綱要 第3篇』を挙げました。その第3章から第5章まで。とくに第3章です。カルヴァンは第2章で「信仰」について語ったのち、信仰と深く結びつき、信仰から生まれてくるものとして「悔い改め」を取り上げます。そして、「悔い改め」とは、神への真摯で厳肅な恐れから発するわれわれの生の真の転換であって、我々の肉と古き人に死ぬことと、御霊によって新しく生きることとから成る（5節）と定義しました。

その際、「転換」とは、魂そのものが新しくされ、心を尽くして神を愛するようになることであり、「神への畏れ」とは、自分の罪を知り、罪を悲し

み、神の裁きのもとに立つこと。「新生」とは、キリストにあずかって再生されることです（6〜8節）。こうしてみると、悔い改めとは、神の救いを受け取ることそのものだとわかります。悔い改めは、洗礼において与えられたものであり、聖化の歩みの中で神の賜物として与えられ続けるものなのです。

カルヴァンはさらに、悔い改めを引き起こし、助けるものとして、御言葉から七つを挙げます。憂い、弁明、憤慨、恐れ、愛慕、熱意、罪を責める心です（15節）。悔い改めが自分の努力や感情にならず、反対に、賜物なのだからと、自分では何もしないことにもならず、御言葉に促されつつ、悔い改めを実際に生きるようになるために、よく耳を傾けたいと思います。

カルヴァンは「律法的悔い改め」と「福音的悔い改め」を区別しました（4節）。福音的悔い改めを引き起こすの

は、神の恵み深さです。神が救いの神であり、キリストが罪の赦しのみわざを成し遂げてくださったからこそ、わたしたちはこの神に帰り、まったく新しくしていただくことができます。

ヘンリ・ナーウエン『いま、ここに生きる』

悔い改めについての理解を深めた上で、改めて悔い改めに生きることを目指しましょう。説教においても牧会においても、悔い改めがきちんと位置づけられなければなりません。

W・H・ウイリモン『異質な言葉の世界』（日本キリスト教団出版局）は洗礼の光に照らして説教を考察します。そして、説教は、今のままであろうとする聴き手をつまずかせ、悔い改めを引き起こす言葉であるはずだと語りま

す。たいへん重要な指摘です。牧会についての古典的名著である

E・トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』（オランダ版）日本キリスト教団出版局）には、「牧会における福音主義的な悔い改め」と題する章が設けられています。牧会は聖化と訓練に向かう福音の伝達ですから、悔い改めに至るものなのです。

説教や牧会に位置づけられるだけでなく、何よりもわたしたちの信仰生活

そのものが、いつでも神に立ち帰り、キリストの十字架によって担われ、聖霊によってきよめられるものでありたいと願います。そのことを具体的に捉え、また生きるために、たいへん助けになり、導きとなるのが、『いま、ここに生きる』です。（『すべて新たに』『あめんどう』など、ナーウエンの他の多くの著作もそうでしょうけれど。）

一つ一つの文章は2頁か3頁のごく

短いものです。その一つ一つにおいて、今ここで、わたしたちの考え方も、感情も、価値観も、そして生きる形の全体も、神に向かって方向転換させられます。福音を生きるとはこういうことなのだと思われまます。



『しかし、勇気を出しなさい』 ——福音の倫理的力』

近藤勝彦：著
教文館
2004年刊
B6判 316頁
2750円



『キリスト教綱要 改訳版 第3篇』

ジャン・カルヴァン：著
渡辺信夫：訳
新教出版社
2008年刊
A5判 528頁
4,950円



『いま、ここに生きる』 ——生活の中の霊性』

ヘンリ・ナーウエン：著
太田和功：訳
あめんどう
1997年刊
四六判 224頁
1,980円

旅人の私たちを 懇ろにもてなす本

〈評者〉 森下辰衛



三浦綾子 祈りのことば

三浦綾子文
おちあいまちこ写真
林あまり解説



「『旅人を懇ろにもてなせ』／とのみ言葉があります。この一語にも、主よあなたが、どんなに旅する者の不安をご存じかが、示されております。／私たちの一生もまた旅人の一生です。その旅人である私たちを、主がいかに懇ろにもてなして下さっていただけるか、愚かにも今まで私は気づきませんでした。／主よお許し下さいませ。」

『三浦綾子 祈りのことば』は、一九九一年九月、日本基督教団出版局より刊行された写真家児島昭雄と三浦綾子の協作『祈りの風景』の四十八の祈りから三十一が精選された本で、心にしつとりと恵みの露が降りてくるような、おちあいまちこさんの美しい写真が新しく付けられています。『祈りの風景』について三浦綾子は、日記形式の随筆『この病をも賜として』の九一年五月の記述で、「児島昭雄先生の写真に言葉をつける作業を開始。重ねられた順に、祈

りの言葉をつけて行く。好きな写真を選ぶということせず。不思議なことに早いスピードで、次々と言葉が湧いて来る」と書いています。自然に流れ出てくる祈りのことばだったことがわかります。それだけに、当時の綾子さんの思索や信仰の質を教えてください。また彼女のいきいきとした詩作力を垣間見させるものでもあります。当時三浦綾子は、パーキンソン病の兆候の中、最後の長編『銃口』を連載しつつ、小林多喜二の母を描く『母』に取り組んでいました。この本にもこんな祈りがあります。『神さま／小林多喜二は口癖のように言いました。／闇があるから光がある』と。／多喜二は三十歳で死にました。警察署の中で死にました。わが子の無残な死を見た多喜二の母は、一生懸命、『山路越えて』の讃美歌を暗誦しました。そして教会で葬式がなされました。／多喜二の母は、闇の

中に光を見出したのです。神を讚美いたします。」

『母』の物語を何行かに縮約したような祈りですが、これもまた、山道の多かった小林セキの人生の旅に懇ろに思いを寄せたものでもあります。

一九九五年九月、私は旭川六条教会で三浦夫妻に初めてお会いしました。その春から大学のゼミの授業で三浦綾子を読み始め、研修旅行で十三人の学生を連れて北海道を訪れたのでした。綾子さんの体調の悪い中、遅れて礼拝にいられた三浦夫妻は、近くのホテルの部屋を借り、中華料理の昼食を振る舞って下さいました。そして震える手でサインを入れた文庫文を一人一人にプレゼントしてください、学生たちのために心をこめて良いお話をしてくださいました。「旅人を懇ろにもてなせ」という言葉を、こちらの想

像を超えて実践なさるお二人でした。そして私はその日、学生が三浦夫妻の懇ろなもてなしとことばによって励まされて、見事に、変わるのを見たのです。

私はこの本を既に何人かの方に贈りました。愛する配偶者を喪った人、重い仕事を担う決心をしようとしている人、大きな苦難の中にいる人。私の言葉では届かないところに届くことばがここにはあるからです。みんな旅人なんだと知らせてくれる慰めの声。私をいのちに繋いでくれる手である祈り。そして、いつの間にか綾子さんと一緒に祈っている私がいる。これは、長い旅を行かなければならない私たち一人一人を懇ろにもてなし、励ましてくれる本です。

(もりした・たつえり三浦綾子記念文学館特別研究員
(A五判変型・八〇頁・定価一三二〇円・日本キリスト教団出版局)

旧約聖書学・聖書考古学の
第一人者による講演集



見えない神を信ずる

月本昭男

旧約聖書のメッセージが持つ現代性を愛・希望・ヨベルの年などのキーワードをもとに解き明かし、隣人愛・兄弟愛・良心の根底にある「見えない神」への信仰を力強く語る。
四六判並製・200頁・定価2420円

対立を超える福音のことばとは



ヨハネ福音書を読もう上 対立を超えて

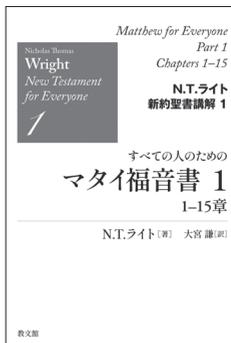
松本敏之

差別と分断が深まる現代。この対立を超えることばを、ヨハネ福音書を通して伝えられるイエス・キリストの福音に聴く。上巻は10章までの黙想41編を取録。
四六判並製・240頁・定価2640円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

聖書学の最新の知見を 踏まえた、心に響く小説教集

〈評者〉大島 力



N・T・ライト新約聖書講解 I
すべての人のための
マタイ福音書 I
1-15章
N・T・ライト著
大宮 謙訳



N・T・ライトの『新約聖書講解』シリーズの第二回配本としてマタイ福音書の前半が翻訳・出版された。すでにライトの書物は、主著『キリスト教の起源と神の問題』の内『新約聖書と神の民』（上下巻）等が訳されている。「おそらく歴史上もっとも多くの読者を得た聖書学者」である、このシリーズの日本語版刊行の言葉に記されているので、今後ともライトの著作は多く翻訳されていくであろう。

N・T・ライトのこの聖書講解シリーズの意義は大きく二つあると思う。一つは、自らの新約聖書学者としての学問的な知見を常に踏まえて、講解がなされていることである。それは死海文書をはじめ、キリスト教が成立していくユダヤ社会の背景についてしばしば言及がなされていることに端的に示されている。もう一つは、例えば本書が扱っているマタイ福音書——一五章の場合、五七のペリコペ（単

元）に分けられ、それぞれが独立した小説教のように構成されていることである。従って、もしこのテキストの区切りに基づいて説教者が毎週、講解説教を試みるならば、ほぼ一年間に亘るものとなる。実際、その各単元の冒頭に記されている現代の日常生活の逸話などから、ライト自身が教会・学校等の礼拝で説教やメッセージを語ったことが明確に分かるのである。

このことは二〇〇年前に由来する新約テキストと学問的誠実さをもって対話しつつ、そのテキストが現代社会の中で何を意味しているかを、豊かな想像力をもって紡ぎ出していることを意味している。その作業を新約聖書全巻に亘って行っているというのだから、脱帽するほかない。さらに、とりわけマタイ福音書は旧約聖書からの引用が重要な役割を果たしているため、旧約聖書から新約聖書への動

きがよく分かるように語られている。その観点から二つの箇所を取り上げてみたい。

「山上の説教」の冒頭（「幸い」の章句）は、「霊において貧しい者たちへの素晴らしい知らせです。天の王国はあなたがたのものです」という言葉で始まっている。そして、そのイエスの言葉は、飛行機のパイロットが音速を超える時に耳にする「爆発音」に譬えられている。すなわち、旧約聖書の民を導いてきた神は、イエスにおいてその「爆発音」に等しい新しいことを始めたのである。それは、申命記における「祝福と呪い」（二八章）の地平を突破する衝撃をイエスの時代の人々に与え、それは今も続いていると語られている。

他方、マタイ特有のテキストである「毒麦（雑草）の譬え」（一三章二四―三五節）では、神の忍耐が語られ、天の王国は一気に到来するのではなく、植物の成長と同様にじっくりとした過程を経て完成することが述べられている。つまり神はその間、活動を休止しているのではなく、悪と戦い勝利しつつある。それゆえ、十字架と復活以後を生きる私たちは「太陽がすでに昇ったことを知っていて、今は昼間の最大の輝きを待っている早朝の人々のように」生きることができると結ばれている。単元ごとに心に響くメッセージを聞き取ることが出来る聖書講解である。

（おおしま・ちから青山学院大学教授・大学宗教主任
（四六判・三三六頁・定価三〇八〇円・教文館）



シンガクすること、 生きること

いちばんわかりやすい
キリスト教神学入門

ケリー・M. カピック
藤野雄大*訳



神さまのことを
考えることは
神学すること

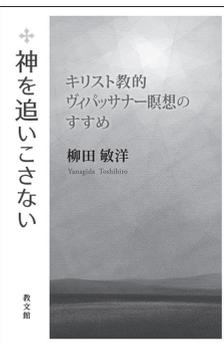
A5判
定価 1,320 [本体 1,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-139-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「修行」の同伴の書として

〈評者〉市原信太郎



神を追いこさない
キリスト教的
ヴィパッサナー瞑想のすすめ
柳田敏洋
Ryouta Minami



本書の著者柳田敏洋神父と小生とのご縁は、教区の教役者研修会の講師としてヴィパッサナー瞑想をご指導頂いたことがきっかけであった。それ以来、小生も自分の祈りの時間にこの瞑想をささやかながら続けており、本書を見たときには、繰り返し参照していた研修会のノートやプリントが本になった！という喜びを感じた。このように、本書は著者の黙想指導の実践に基づいており、前半の講話編は実際の黙想講話を元にした書下ろしで、後半の実践編は八日間の瞑想指導のスケジュールに従って進んでいく。理論と実践という両方向からのアプローチが霊的指導の現場からなされているのは、本書のありがたい特徴である。

ヴィパッサナー瞑想とは、近年「気づき（マインドfulness）」の瞑想」として企業などでも取り入れられており、本書の言葉を借れば「あるがままの今ここ」に気づいて

の中に身体を十分に参入させないという限界がキリスト教霊性にはあり、だからこそ身体から祈りに入っていくヴィパッサナー瞑想の特徴を大切にすべきという、本書の問題提起に至ることができたのであろう。

分量的に全体の八割以上を占める講話編では、企業の研究者であったという著者の経歴も相まってか、図解も含めて大変論理的に議論が展開され、ある種の小気味よさすら感じる。しかしその一方で、本書は単なる分かりやすい理論書ではなく、実際に瞑想を行おうとする人のためのガイドブックでもある。著者が「思弁的になりすぎずに、つねに自分の瞑想体験によって確かめながら」というアプローチが大切と語るように、この瞑想の経験と、その経験の背後にある事柄の理解とが、同時に起きることが理想的なの

いくという瞑想であるが、もともと上座部仏教で伝えられていたこの瞑想を、価値判断をせずあるがままを愛する「アガベの心」から、キリスト教の視点で受けとめるという点で著者の立場は特徴的と言える。このような経緯もあって、著者はカトリック、またキリスト教の枠を超えた様々な対話に積極的で、聖公会に属する小生がこの原稿を書かせていただいているのもその現れかも知れない。

「はじめに」で著者が述べているように、本書が著者の霊的な探求と実践の経験に基づくものであることは、本書に単なる手引き書を超えた深みを与えている。また、イエズス会士である著者が、インドの修道院での生活の中でこの瞑想に出会ったことを始め、イグナチオの「霊操」や東洋の霊性との関係など、イエズス会の霊性の伝統の厚みも感じさせられる。その土台に立つ著者であればこそ、祈り

だと思う。思えば、著者の実際の黙想指導の中では、講話と瞑想の「行ったり来たり」を通して、確かにそれを経験していた。やはり本書を手にとった人は、巻末に書かれているように、実際に指導を受ける機会をぜひ持つて欲しい。個人的には、「キリスト教にも修行が必要」という著者の言葉が印象に残っている。本書ではこれを自転車に乗る練習にも例えているが、読者の皆さんも本書に助けられながら、あるがままの自分を見つめる「修行」をうまずたゆまず続けていくことを通して、今ここで働いておられる「神を追いこさず」、神のアガベの場に招かれた者としての恵みを十全に味わって頂きたいと思う。

（いちほら・しんたろう）日本聖公会司祭
（四六判・三〇〇頁・定価二二〇〇円・教文館）

ヨベルの新作・重版案内

早坂文彦
〈看護学院女子会名誉教授 新免貢先生推薦！〉

洗礼をめぐって
反響拡大中！

今日聖書はなにを語っているか
洗礼を権利と義務へ制度化してきた教会のあり方を聖書原典を分析・解釈、精読することによって批判・検討し、「水で始まり、火で終わる」洗礼を受けたナザレ人イエスを遊行するこゝとで洗礼本来の意味に迫る「洗礼論」！

新書判、二二四頁、二二〇〇円

鎌野善三
〈日本イエス・キリスト教団 西宮聖公会牧師 各巻重版準備中〉

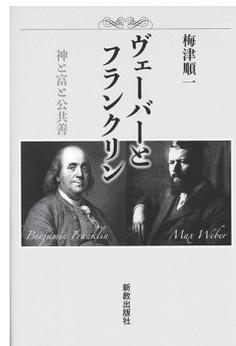
3分間のグッドニュース 詩歌
聖書通読のためのやさしい手引き書

聖書通読の楽しみを3分で手引き書
歓喜と詠嘆が激しく交錯する詩歌（3冊）
詩篇・箴言・伝道者の書 雅歌 も3分で一章―3分―一章まるごと呑み込める！
再版出来！A5判美装・二二〇頁・一七六〇円
チャレンジ！聖書通読 新書判・二二〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

現代に与える多くのヒント

〈評者〉小檜山ルイ



ヴェーバーと
フランクリン
神と富と公共善
梅津順一著



「われわれは、以下の事実を自明のことと信じる。すべての人間は生まれながらにして平等であり、その創造主によつて、生命、自由、および幸福の追求を含む不可侵の権利を与えられている……。」一七七六年に出たアメリカ独立宣言の中で最も有名な一文。起草者は理神論者トマス・ジェファソン。当初の草稿には傍線部の創造主への言及はなかった。入れるよう助言したのは、庶民を知るベンジャミン・フランクリンではないか。大学院生の時、齋藤眞先生がそう推測されたことが、読後、鮮明に思い出された。

本書は、マックス・ヴェーバーが有名な『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』においてフランクリンに「資本主義の精神」の典型を見たことに着想を得て、通常は啓蒙主義の申し子とされるフランクリンの宗教的側面に光を当てる。第一部は、フランクリンのピューリタンの

出自を父の世代から説き起こし、理神論に傾斜した若き時代を経て、道徳の実践という形で独自の信仰生活に至った道程が描かれる。第二部は、印刷所経営者としてのフランクリンが、禁欲的生活態度を獲得する上で、ピューリタンの自省習慣を採用したことなどが紹介され、その禁欲主義と職業観の宗教性が論じられる。また、彼の経済構想が、中産層の利益を重視していたことを論じ、ヴェーバーが資本主義発生時の担い手として中産層を特定したことに重ね合わせる。第三部は、社会企業家、政治家としてのフランクリンを扱い、その「公共善」への志向がピューリタニズムの伝統から引き出されたことを明らかにする。大学設置など、アメリカ植民地で通常宗教的企画として立ち上がったものが、ペンシルヴァニアでは市民的企画として立ち上がり、その中心にフランクリンがいたといった指摘は、な

るほど、と思わせる説得力がある。著者は、フランクリンのキリスト教の中に、後にロバート・ペラが構築したアメリカの「市民宗教」の萌芽を見て、本書を終えている。

ヴェーバーやフランクリンの専門家ではない筆者は、この二人の著名人、また前者の「倫理論文」をめぐる長い研究を踏まえて本書に向き合うことはできないのだが、『フランクリン自伝』の読み直しとして多くの示唆を得た。一七八〇年代以降の建国期に共和国市民の属性として「公徳心 (virtue)」の必要が盛んに議論された。その起源は通常古代ギリシャ・ローマの共和制における *virtus* (勇らしさを含意) に求められる。筆者はそれが、第二次大覚醒を通じて、キリスト教道徳と接合され、また、女性化されたと考えてきたが、フランクリンにおいては、すでに公徳心は

ピューリタニズムの公共善と接合されていた可能性を教えられた。

アメリカでは、近年ずっと、「権利」の主張とその擁護を軸に「正義」が追求されてきたが、今、その限界が意識されつつある。個人および多様な集団の「権利」を制限しうる「公共善」をどう見いだし、どう設定しうるのか。現代のアメリカ、そしておそらく世界の喫緊の課題に一八世紀を生きたフランクリンがヒントを与えうる点が多い。

蛇足。フランクリンのキリスト教への接近の仕方は御儒者中村正直のそれ、社会起業家としての生き方は今度一万円札になる渋沢栄一のそれを想わせる。日本でフランクリンを知る学生は今日ほとんどいないが、もつと学ばれて良い人物である。

(四六判・四五六頁・定価四五〇円・新教出版社)

ヨベルの新作 / 近刊案内

日本基督教団
仙台青葉区教会牧師
潮義男

創世記講解・下

付録・ホーリネス誌掲載随想集
新型コロナウイルスと教会

創世記
23章〜50章

人のドラマか、神の物語か。尽きせぬ魅力を描写する。愛する者の死と葬儀、兄弟・姉妹・親族間の確執と葛藤、故郷喪失のあてどない放浪。その中で神の縦糸が個人を、世代を、どう貫いているかをパノラマのように見せる。礼拝で語られた講解説教、待望の下巻。魅力的な随想集も併録。新書判・344頁・1320円

キリスト教思想史の諸時代

I ヨーロッパ精神の源流【既刊】
II アウグスティヌスの思想世界【既刊】
III ヨーロッパ中世の思想家たち【既刊】
IV エラスムと教養世界【最新刊】
V ルターの思索【第五回配本・編集者】
VI 宗教改革と近代思想【第六回配本】
VII 近代思想との対決【第七回配本】
別巻1 アウグスティヌスの霊性思想 第八回配本
別巻2 アウグスティヌスの三位一体論の研究 第九回配本

金子晴男 東西の霊性思想 本邦キリスト教と日
大反響 再版出来! 四六判下巻・280頁・1800円

全7巻別巻2
新書判・平均256頁
各巻1,320円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

教会政治はなぜ大事か

〈評者〉澤 正幸



教会政治の神学
改革派の教会政治原理とは
(大森講座XXXV)
吉岡契典著



個人ではなく、ある教会の名前を冠した講座は、日本のキリスト教界だけでなく世界でもあまり聞かないように思う。日本キリスト教会大森教会が、教会建設七〇周年を記念して創設した大森講座から、三〇年以上に亘って毎年その記録が出版され続けていることは刮目に値する。永年神学教育に携わり、大森講座開設に尽力された平出亨大森教会前牧師の宿願であった、若い神学者が学びと発表の機会を得ることがこの講座によって実現し、今日まで豊かな成果が生み出されてきたことを喜びたい。

巻末の三五回に及ぶ講座の題目を眺めても、今回の「教会政治の神学」という主題は稀有であることに気づかされる。著者の吉岡契典牧師は「なぜ教会政治は、神学的扱いの対象とみなされないか」その理由から講義を論じ始める。「教会政治」とか、「教会総会」という言葉の後に「屋」

を加えてみたらお判りだろう。およそ、教会における信仰的・霊的事柄に関すること、教会政治や、教会の組織・制度のことは次元を異にする一般的な受け止められている。信仰や霊的事柄は神学の対象となりうるが、教会政治や組織・制度についてはこの世の常識で判断すれば足りると考える人が少なくないからである。

それに対して著者は、信仰や霊的事柄、すなわち信仰告白や教理だけでなく、教会政治、教会の制度を定める教会規程もまた、神学的考察なしではあり得ないことを論じる。それゆえ「教会政治の神学」という主題を掲げるこの講義の前半分は、「教会政治」とは何ではないか否定的側面を論じ、後半で、肯定的側面、すなわち「人間の言葉ではなく、神の言葉が権威となる」、「聖書的な教会規程に基づく教会政治」について論じる。

この講義の白眉は改革派教会の、長老主義という教会政治原理を論じる第4章であろう。特に日本ではあまり知られていないヨハネス・ア・ラスコの「ロンドン教会規程」について、その意義、版行過程とともに内容が紹介されている。著者が「カルヴァンに萌芽を見た改革派教会の長老主義教会政治は、ア・ラスコの実践において、原初的な形であるものの、実現を見た。そしてその職制、信徒の教会政治への参加、個人の権威によらない長老会による会議という集团的権威による政治の中に、長老主義教会政治の本質を見ることができるとではないか。そしてそれは、単なる長老主義教会政治の一例を表す特定の事例であることを超えて、後の時代とまた他の世界諸地域においても妥当す

る、長老主義教会政治に働く普遍的な神学をも描き出していると言えるのではないだろうか。」とア・ラスコの「ロンドン教会規程」を高く評価するのに、筆者は全面的に賛同する。

三〇年前「長老制とは何か」を論じて講筵に列ならせたいいただいた筆者にとって、それはその後の神学研究の出发点になったが、著者に望みたいのは、ぜひア・ラスコの「ロンドン教会規程」を本格的な研究対象として取り上げ、世界で妥当する教会政治をこの国の教会において実現する道を開いてくださることである。

(さわ・まさゆき) 日本キリスト教会福岡城南教会牧師
(四六判・一〇一頁・定価一〇〇〇円・新教出版社)



キリスト教書総目録

2022年版

(12月中旬発売)

中国のキリスト教

巻頭エッセイ 佐藤千歳氏 松谷暉介氏

内容

総記年鑑 辞(事)典 図説年表/全集(著作集) 叢書 講座/聖書 聖書学/神学/宗教学 思想 倫理/伝記(ノンフィクション)/信仰入門書 人生論 説教集/文学小説 評論エッセイ 詩 劇/音楽 美術 建築/教育 保育 心理 社会福祉/児童 絵本/讃美歌 式文/DVD CD カセット ビデオ/キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

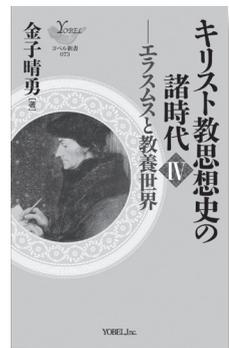
■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送品手数料200円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

現代に甦る エラスムスの神学思想

〈評者〉濱 和弘



キリスト教思想史の
諸時代Ⅳ
エラスムスと教養世界
金子晴勇著



エラスムスは「ヒューマニストの王者」と呼ばれ、また「一六世紀はエラスムスの時代」とまで言われた知の巨人である。ところが、彼の神学思想と業績は意外と知られていない。しかし、S・ツヴァイクが鋭く見抜いたように、現代社会に生きるキリスト教にとって、エラスムスの神学思想こそが必要な、求められるべきものである。そのエラスムスの神学思想を、本書の著者である金子晴勇氏は、彼の主要著作に沿いながら描いていく。

ともすれば、エラスムスの神学思想は、神中心ではなく人間中心であり、道徳主義的に見られる傾向がある。しかし、それは正当な評価とは言い難い。本書はそれを明らかにしていくのであるが、その際、著者は、まずペトルルカ・ヴァッラ、ピコ・デラ・ミランダといったキリスト教人文主義（ヒューマニズム）から叙述を始める。

承しながら発展させ、『新約聖書序文』によって初めて小作品なのに完璧な叙述に到達する。その内容はルターの『キリスト者の自由』と比べても豊かな内容となっている。そのなかの「方法」がさらに展開したのが彼の神学的代表作『真の神学の方法』であって、その訳者でもある著者によって一連の経過を実に丁寧な叙述を通して明らかにする。そこにはキリストの生き方を聖書を通して学ぶことなしにはあり得ない。したがってエラスムスの神学は「聖書のみ」であり、古典はその聖書理解のための予備的なものにならざるを得ない。その聖書の解釈は歴史的・修辭学的理解に立ちつつもそれを越える霊的で「物語神学的な聖書解釈の方法」が見事に展開する。

また、このような神学思想が背後にあつてこそ、『痴愚

キリスト教人文主義には、「人間の尊厳」への高揚が見られるが、そこには人間の本性は神の像にあり、それゆえに人間の本性は絶えず神に向かうという信念がある。その信念に立ち、エラスムスは古典文化とキリスト教の総合、世俗の学問と敬虔な信仰との統合とを目指す。それを、「キリスト中心」に立ち、また「聖書のみ」の聖書主義に徹しながら、優れてキリスト教信仰の上に結実させたものが、本書の著者が描き出すエラスムスの神学思想である。

エラスムスは先に指摘した文化総合を当時の人々の意表を突く表現「キリストの哲学」でもって明らかにする。本書では、この「キリストの哲学」が形成されていく過程を、時系列的に並べられた彼の著作を解説しつつ説明していく。それは初期の代表作『エンキリディオン』のなかでほぼ完成してはいるが、人間学的視点をオリゲネスから継

神礼賛』や『対話集』のような、当時の教会に対する批判が隠された作品が生み出されていったと言える。さらに「エラスムスの女性観」はこれまで誰も問題にしなかった論文であって、興味深い。また彼の聖書解釈学についての叙述もルターとの比較で注目に値するし、最後の「近代主体性の問題」も自律と神律の観点から説き明かされており、新鮮さが感じられる。

この一連の叙述を通し、おそらく読者は、本書評冒頭で評者が指摘した「現代社会に生きるキリスト教にとって、エラスムスの思想こそが必要である」がどういう意味なのかご理解頂けるであろう。

(はま・かずひろ) 日本ホーリネス教団小金井福音キリスト教会牧師
(新書判・二八八頁・定価一三二〇円・ヨベル)

聖書協会共同訳準拠の 「詩編」ガイドブック

聖書協会
共同訳

詩編をよむために

発行元・日本聖書協会 A5判、並製本、ジャケット掛け、160ページ
定価1210円(本体1000円+税) ISBN978-4-8202-9280-7

タイトルと
その執筆者

「詩編の基礎知識―構成・技法・研究史そして……」 飯 謙
「詩編に親しむ―心に泉を」 春日 いづみ
「川のある風景」 石川 立
「天を仰いで神に歌う―悲しみ嘆き、報復の詩がなぜ詩編にあるのか」 石田 学
「詩編を日本語で歌う―『典礼聖歌』を手がかりとして」 西脇 純

多様な読み方が可能な詩編を、最新の聖書協会共同訳で味わうための道先案内となる、ガイドブックです。聖書協会共同訳の詩編の翻訳事業に携わり、各専門分野の第一線で活躍中の先生方による、それぞれの視点からの行き届いたレクチャーが、詩編の豊かな世界へ導いてくれることでしょう。

お求めは全国のキリスト教専門書店
またはwebへ

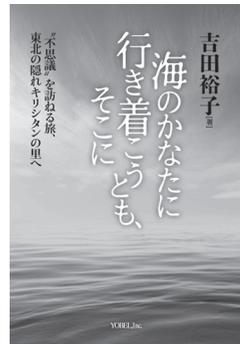
JBS 日本聖書協会

〒104-0061
東京都中央区銀座4-5-1
聖書館ビル
e-mail: distri2@bible.or.jp
https://www.bible.or.jp/



劇的な話の史実の 背後にある『不思議』

〈評者〉 辻 哲子



海のかなたに行き着くとも、そこに

『不思議』を訪ねる旅、
東北の隠れキリシタンの里へ

吉田裕子著



興味深く一気に読んでしまいました。何と表現力豊かで、昔の事柄をよく記憶されておられ、米川村に起こった出来事を辿ることができました。

特に後藤寿庵のことは、多く学ぶことができました。私が一九四五年に水沢市に（現の奥州市）疎開しておりましたので、興味深く用水路のことを想い出され、彼の活動に関心を持っておりました。それが米川村に彼の墓碑が「墓地発見さる」と明らかにされるとは、長く長く隠れキリシタンの歴史が米川村にあったこと。『クリスマス』の開催の不思議から、歴史をひもとかれたこと。感心して読みました。同時に一五〇〇名も村民が集まったことなど。あの時代を私も懐かしく想い出されます。

それは、辻宣道が焼津で開拓伝道をしていた頃のクリスマス（一九五二年）、市の公会堂を借りてクリスマスをみが伝わってきました。その背後には、主なる神の『不思議』なお働きがあることと、その『不思議』を尋ね求めて行く旅路は、私も一緒に歩いているような思いに駆られました。

鈴木景子さんに出逢われたのも、素晴らしいですね。最後に、及川甚三郎氏のこと、勉強になりました。これに加えたことは成功でした。

カナダに明治のはじめに開拓されて米川村の人々を助けたこと、『密航船水安丸』新田次郎著を参考にされたとしても、登場人物の会話に魅かれました。劇的な話の史実の背後に、やはりキリストを信ずる信仰の『不思議』が伝わってきました。

本当に良書が出版されて嬉しいです。また吉田裕子さんに素晴らしい文才があることも、改めて知りました。

また、「前書き」に川上直哉先生を紹介され、多くの読者が与えられることを思いました。私も、ヨベルの安田さんから『被災後の日常から』川上直哉著を贈られて、はじ

して、私はオルガンを弾くために、東神大（東京神学大学）在学中でしたが駆けつけました。やはり静岡英和女学院の生徒をはじめ数百名も集まったことを想い出します。

米川新聞やその他の資料を詳しくお調べになり、当時の歴史的な状況と、日常生活の体験を事細かく述べられ、当時の情景が浮かんで参りました。全く忘れていた、サイカチで身体を洗ったことなど、私は疎開したからこそ体験できたことを想い出しました。私は戦後、一九四五年九月に水沢に進駐軍が来て、父がその通訳をしたため、石けんに是不自由しなかったこと、また米国にいる叔母家族から、次々と衣類や石けん、食品が贈られてきましたので、東京の奥沢で被災を受けたにも拘わらず、親戚一同に支えられて、あまり苦勞せず過ごしたことも想い出されました。

沼倉たまき先生をはじめ、良き人々に出逢えた豊かな恵めて先生のご著書を知りました。またお働きも……。誠におめでとうございます。ご著書が沢山の方たちに読まれますようにお祈りしています。

以上が、本書を頂いたときの吉田さんへの私信でしたが、改めて書評となると次のことを紹介したいと思えます。この『不思議』を訪ねる旅は、

- 一、みちのくに隠れキリシタンの知られざる殉教地及び歴史がたくさんあること。
- 二、個人史であると共に、みちのくのキリスト教史を語っていること。
- 三、明治の頃、みちのくの米川村出身にすぐれたキリスト者がいたこと。

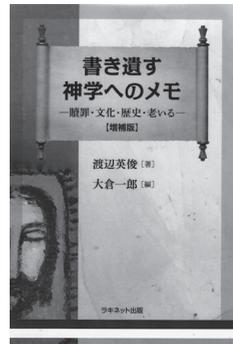
その一人に及川甚三郎が、凶作による困窮の村民を救うためカナダに渡り悪戦苦闘した話には感動的です。本書は、隠れた地の塩、世の光であるキリスト者たちの証しです。

（つじ・てつこ 日本基督教団隠退教師）

（四六判・二六四頁・定価一六五〇円・ヨベル）

すべては「イエス運動の実相」から

〈評者〉佐藤幹雄



書き遺す神学へのメモ
—贖罪・文化・歴史・老いる—
【増補版】
渡辺英俊 著
大倉一郎 編



本書は、神学的思索の遺言と告白して記された著者の論考である。「I贖罪」「II文化」「III歴史」「IV老いる」の四部からなっているが、本論に入つてすぐ、著者はこう述べている。

「自分の神学の営みにおいて、私が関心の中心に置いてきたのは、『史的イエス』と『贖罪論』であった。牧師としての活動においても、神学的にはこの二つが楕円の焦点のようになって動いてきた。」(「I贖罪」の冒頭)

このように、著者は、自分の思考・行動を生み出す場を楕円に例えて、「史的イエス」と「贖罪論」を、その楕円の二つの焦点であると言う。それほどに分けることが困難だというわけだが、実際には、著者が理解したイエス運動の実相から、「贖罪論」を捉え直してきたことが読み取れる。また、それに続く「II文化」も「III歴史」も、「I贖罪」

しい「文化」を踏みにじつてきた「歴史」である。そこで、著者は、その獐猛な「文化」に支配されている現実を「(原罪)」として示し、イエスの運動を、その中で貧しくされた人々を解放する活動として捉えるのである。

著者の姿勢は、イエスやその後のキリスト教会の在りようをどう捉えるかにおいて一貫している。すなわち、著者は、神話的・救済史的なものを排して、現実の歴史の中を生きたイエスを提示するのである。著者は、そのようにして受け止めたイエス運動の実相やその後の歴史を踏まえて、神話や護教論から導き出されたものとは全く違う新しい「贖罪論」「宣教論」「終末論」を提示するのである。

著者は、聖書学に憧憬が深く、その研究者と言つてもよい方だが、やはり、それ以上に「牧師」「運動家」である

で論じてきたことを、別の切り口で論じたものと言えよう。

すなわち、著者は、「II文化」において、Iで論じてきた「罪」を、神話の中の抽象化された罪観念から引きはがして、現実の社会・歴史の中で具体的なかつ根源的な罪の実相として示している。また、「III歴史」においても、「教会史」世俗史と切り離れた救済史」と考えて現実世界の歴史への責任・関与を放棄してきた教会の在り方を批判しつつ、世界の歴史を神の働く場として、また、私達をその神と共に働く者として意味づけるのである。

さて、著者は、フリーピンで解放の神学に触れた体験から、社会の最下層に置かれた人々の視点で聖書を読み返す作業をしている。そして、そこで見えてきたものが、土地(富)を奪い、困り込む(貯め込む)ことを当然とする獐猛な「文化」が、奪つたり貯め込んだりしない本来的で優

と思わされる。著者は、史的イエス研究の「蓋然性」という言葉に身を隠すことなく、解放の神学という「低み」の視点から捉えたイエスの姿を確かなものとして受け止め、そこに立つという「決断」をして、そこを足掛かりに「運動」へと展開しているように思えるからである。著者が「書き遺す」と決めた内容と志は、そこにあるのではないだろうか。多くの人に、とりわけ、牧師として現場に立ち立つ思索する人には、ぜひ読んでいただきたい書物である。

ちなみに、この著作は、三つの「論考」のあとに、著者自身の「老い」を語る「エッセイ」が続くが、私には、それについて「論評」できる力がない。そこで、三つの「論考」についてのみ、考えたことを述べておきたい。

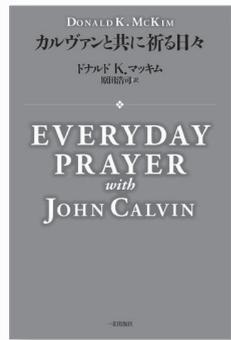
(さとう・みきお 日本キリスト教団岩見沢教会牧師)

(四六判・一四二頁・定価一〇〇円・ラキネット出版)



カルヴァンと共に祈る日々

ドナルド・K・マッキム
原田浩司*訳



カルヴァンの珠玉の言葉とマッキムの聖書に即した黙想がわたしたちを祈りの人へと導く

四六判

定価 2,200 [本体 2,000 + 税] 円
ISBN978-4-86325-126-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

愛すべき永遠の少年たち

〈評者〉後宮敬爾



ボクたちは
軍国少年だった！
平和を希求するふたりの自伝
深田未来生、木村利人共著



本書は二人の「永遠の少年」のライフストーリーである。一人は同志社大学神学部から多くの牧会者を送り出した深田未来生。もう一人は、バイオエシックス（生命倫理）という分野を日本社会に創り出した木村利人。この二人には、多くの人を愛し、多くの人に愛されているという共通点がある。米寿を迎えてもなお少年らしい夢と反抗心を失わないその二人が、自身のライフストーリーを執筆した。

このライフストーリーは、単なる自分史ではない。ここでいうライフとは、人生であり、生涯であり、生活であり、生き方である。それらから社会や文化や価値観を読み解く試みなのである。

内容は、五章で構成されている。

第一章では、深田未来生の人生と生涯が語られる。深田自身が「このような企画を進めて良いのか」と記すくらい

社会の中で、そして教会の中で、自分の責任を果たしているのか」と私たちにも問う内容になっている。

第四章と第五章は深田と木村による本書のエピローグである。深田は、自分という人間の成長を支えてきたものは、心を砕く多くの人との出会いと交わりであったと語る。縦の序列ではなく上下のない円形の人間関係によって「うまく生きるより共に良く生きる」事を勧めている。

木村は、敗戦後の「新憲法」との出会いを詳細に語る。「戦争の愚かさを痛感した木村にとって、「戦争の放棄」「民主主義」を中心とした新憲法こそが、日本のみならず世界が良いものへと変化するための「希望」なのである。

そして、この二人のもっとも大きな共通点は「信仰」である。二人ライフが崩壊するような危機を救ったのは神で

正直に誠実に、苦々しい思いも記されている。しかし深田を知る者は、その体験がああ深田の包み込むような優しさを涵養していったと気づくこととなる。

第二章では、木村利人の人生と生涯が綴られている。どんな時にも前向きで笑顔を絶やさず、社会全体に大きな貢献をし続けてきた木村である。しかし、その原点は、やはり人間存在の根底が揺るがされるような体験だった。

第三章には、二人の対談がまとめられている。ここで中心になっている概念は「責任」である。二人は少年時代に戦争を体験している。しかもそれは受け身として戦争を体験したのではなく、書名にあるようにむしろ積極的に戦争に加担する「軍国少年」だったのだ。そのことを振り返りながら「子どもなりの責任の取り方があるのでは」ということを自らに問う。そして、その問いは、「あなたは、今、

あり、その神によって備えられていた人々との出会いがあった。そして、その経験は二人の神の愛に対する強固な信頼となっていく。深田はそれを西陣織の「横糸と縦糸」の織り合いと表現し、木村はそれを「摂理」と表現する。本書を読み進めていく内に、二人のライフストーリーに伴っていた神の愛が浮かび上がってくるのだ。

これからの時代はいくつも未知の壁を越えるような生き方をしていかなければならないだろう。「隔ての壁」（エフエソ二章四節）を越えるために、どのような視座と信仰が求められるのかを学べる良書である。

（うしろく・よしや〓日本基督教団霊南坂教会牧師）
（四六判・一八二頁・定価一八七〇円・キリスト新聞社）

三浦綾子の祈りと写真のコラボ



三浦綾子 祈りのことば

おちあいまちこ 写真 三浦綾子の祈りのことば31編を精選、写真家・おちあいまちこの作品を配したコラボ作。三浦綾子の神様への感謝の祈りと美しい写真とが響き合う。2022年4月の生誕百年記念。
A5判変型・80頁・定価1320円

ナウエンの名著セレクション



ナウエン・セレクション 死を友として生きる

第3回 記本
ナウエンが語る「死ぬことを生きることと同じくらい自分のものにする」とは。聖書の視点で死とケアを考える『最大の贈り物』と、交通事故の経験を踏まえて死の意味を思い巡らす『鏡の向こう』の二作を収録。四六判・192頁・定価2420円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-uccj.jp>

スピリチュアルケアを 理解するために

〈評者〉 柏木哲夫



共に生きる
スピリチュアルケア
医療・看護から宗教まで
瀧口俊子、大村哲夫、
和田 信編著



本書はスピリチュアルケアについて知りたいと願っている方々にとっては、待望の書だと思えます。医学には解剖学や病理学のような基礎医学と、外科や内科といった臨床医学があり、同じようにスピリチュアルケアにも基礎と臨床があります。本書の特徴の一つはスピリチュアルケアの基礎と臨床がバランス良く記述されている事だと思えます。私は本書の「はじめに」を書かせていただきました。スピリチュアルケア学会の会員の執筆が多く、私が学会の理事長を仰せつかっている関係で依頼を受けたものと理解いたしました。

書名に医療・看護、宗教という言葉が入っていますが、この三つの領域だけがスピリチュアルケアが重要視されるというわけではありません。教育や企業の現場でもスピリチュアルケアが必要になる場合があります。しかし、この

した。そんな時、ある雑誌に興味深い記事が載りました。新しい言葉が市民権を得ているかどうかは、タクシーの運転手がその言葉を知っているかどうかで決まる……というのです。タクシーの運転手は乗客との会話、乗客同士の会話から、今、世間で話題になっていることを知ります。この記事を読んで、私はタクシーに乗る度に、「運転手さん、ホスピスって知っていますか？」と尋ねる癖ができました。「新手のホスピスですか」というようなガツクリくるような答えをもらうこともありました。最近でも時々尋ねますが、嬉しいことに、ほとんどの運転手さんが、詳しい内容

三つの分野は特にスピリチュアルケアと親和性が高いのではないのでしょうか。私はホスピスという場で約二五〇〇名の患者さんの看取りを経験いたしました。ほとんど全員がスピリチュアルペインを持っておられました。ある時、スピリチュアルケア学会の立看板を見て、通りすがりの二人組の中年の婦人の一人が、「スピリチュアルケア学会ってどんな学会？」と連れに尋ねました。その連れは「よく知らないけれど、魂のケアについて研究している学会かな」と答えました。この人は「スピリチュアルケア」を「魂のケア」と言いました。見事だと思えました。新しい概念を新しい言葉で表現し、それを一般社会に広めていくには特別の努力が必要です。一九八四年に淀川キリスト教病院でホスピス病棟をスタートさせた頃、「ホスピス」というものを多くの人に知ってもらいたいと思いま

はともかくとして「ホスピス」という言葉を知るようになりました。

「スピリチュアルケア」という言葉はどうでしょうか。タクシー運転手に尋ねたことはありません。まだまだ市民権を得ているとは言えないかもしれません。しかし、新聞やテレビ、その他のマスコミで取り上げられることが次第に多くなってきた感じはあります。スピリチュアルケアに関心を持っておられる方々の一読をお勧めいたします。

(かしわぎ・てつお) 日本スピリチュアルケア学会理事長

(A5判・四〇〇頁・定価三三二〇円・創元社)

神学ダイジェスト131号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2021年12月発行
A5版120頁
定価640円(税込)

特集 今日のマリア論

●巻頭言 今日のマリア論について
神学の内に示されるマリア論の新たな方向性 M マックケンナ
貧しい人々と現代の「霊」が示すマリア I ゲバラ他
マリア研究の母体としてのガリラヤ E・A ショーンソン
正教会とカトリックにおけるマリア B・E デイリー
カパシラスの『受胎告知』についての説教 P・プロスベリ
聖ヨセフ年―父の心で― J・アロシヨ|| エステヴェウス
●連載 私は思ったより大丈夫 ホン・ソンナム

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

■キリスト新聞社

説教 十字架上の七つの言葉

——イエスの叫びに教会は建つ

平野克己著

コロナ感染症が世界を席巻していった2020年春。そのただ中で、説教として語られた十字架の七言。イエスと共に、救し、愛し、結び、渴き、叫び、ゆだねる……その道行を、圧倒的な説教を通して静かに辿るレント説教集。

四六判・220頁・予価1870円

■教文館

生命(いのち)との別離(おわかれ)

——事前医療指示書から緩和医療に至る手引き

ヴォルフガング・R・アーデ、島田宗洋訳
ミヒヤエル・デ・リッダー著

終末期の人体に起こる変化を、救急医療とホスピスの現場で活躍する医師が詳しく紹介。一人ひとりの希望に沿った最期を迎えるための法的な準備を手引きする。

四六判・270頁・定価2420円

新しいダビデと新しいモーセの待望

——イザヤ書の正典的解釈

田中 光著

イザヤ書前半の「王預言」と後半の「僕預言」におけるメシア像はどのようなものか。正典的解釈に基づき、ダビデ的王とモーセ的預言者への終末論的待望からイザヤ書の包括的理解を目指す。 A5判・600頁・定価7370円

■日本キリスト教団出版局

大学の祈り —— 見えないものに目を注ぎ

青山学院大学宗教主任会編著

入学式・卒業式から箱根駅伝祝勝会にいたるまで多くの学内行事でささげられた祈りと共に、食事の前、就活の途上、PCの調子が悪い時などにささげられた祈りを多数収録。

※ 一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sesaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_syouken_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 穀穂センター・イマif	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新富2-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3393-5778	共用	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://www.digitaleg.jp/~yokitama/s/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	共用		00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://web.yoto-net.or.jp/people/kiordan/	kiordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410	00160-2-18410
バイブルハウスびらりの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132	00170-2-421390	kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388	hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958	01360-4-1958
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177	ykwb3@gmail.com	16220-17974891	16220-17974891
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017	http://www.geoties.jp/matsuyata_107/mob.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965	01780-4-39965
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	1790-4-152916
キリスト教書店店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			
沖繩キリスト教書店	904-2151	沖縄市松本7-18-7	098-927-0220	098-938-1102			

INFORMATION

近刊情報

祈りについてのユニークな入門書。

四六判・128頁・定価1320円

二羽の小鳥

——信仰の尽きぬよろこび 中山直子著

内村鑑三に師事した祖父のこと、田ノ連に家族で暮らしたこと、ミッションスクールで大学教員としての日々……。信仰をうたう詩人が恩寵の人生を詩とエッセーで振り返る。

四六判・186頁・定価1980円

ペトロの手紙を読もう

——危機の時代の「生ける望み」

井ノ川勝著

因習が強い伊勢・山田教会と北陸・金沢教会の牧会経験の中から語られたペトロの手紙の連続講解説教を収録。コロナという時代の危機と、日本という異教社会に生きる危機の中での「生ける希望」を見つける書。

四六判・208頁・予価2420円

■新教出版社

死と命のメタファ

——キリスト教贖罪論とその批判に対する聖書学的応答

浅野淳博著

「キリストは人間に代わってその罪を負い、身代わりとなるために死んだ」という代理贖罪論は果たして正しいのか。少数者に犠牲を強いる「犠牲のシステム」だとの批判を受けとめつつ、聖書及び関連古代文献を徹底的に検証し、キリストの死の意味とその「語り方」を考える。

A5判・360頁・予価2970円

ヤバイ神

——不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著 白田浩一訳

旧約聖書には、神が残酷で好戦的で家長的だという印象を与える箇所が少なくない。そのようなテキストをどう解釈すべきか。多くの人が躓きを感じる箇所を取り上げ、そうした表現の意味と理由を丁寧に考察し、神の真の姿に迫った異色の旧約入門。

四六判・250頁・予価2420円

福音と世界

2022年3月号

特集 部落解放—歴史と可能性

寄稿者—友常勉、黒川みどり、藤野豊

前川修、川崎那恵、守中高明

好評連載 ルカ福音書（山崎ランサム和彦）、
霊性のエコロジー（村澤真保呂）、I.S.S.A.
Little Prayer 開かれる世界（栗田隆子）、福音
のフラクメント（有住航）、日本のキリスト教
を読む（山口陽一）、アジアの草の根（平和和
証し人 一歩、また一歩（宇井志緒利）ほか

A5判・定価660円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

編集委員として、本欄を書く中で
何度か、筆者宛てにお便りをいただ
いたことがある。「よかったので、
冊子に引用させてほしい」という光
栄なお申し出や、感想と一緒に、ご
自身が編まれた人物事典を送って
くださった方もいらつしやる。お一人でまとめられたという
ことに、頭が下がる思いになった。ここからが筆者の悪い
ところだが、いずれも、お返事をなかなか書けずにいる。
ここにお詫びと、改めて御礼を申し上げたい。

さて、最近『語りかけ給う神』（飯清著／ヨルダン社）
という四十年以上も前に編まれた説教集を読んでいる。「説
教集は声に出して読むといい」と聞いたこともあり、マス
クの中で口を動かしながら味わっている。舞台となった教

予告

本のひろば

2022年4月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）村上みか、（書評）及川 信著
『クリスマス小品集 みちびきの星』大井 満貴
任編集『わたしたちの希望—パンデミックの時代
に』、鎌野善三著『チャレンジ！ 聖書通読』、フ
ランシスコ会日本管区訳・監修『アシジの聖フラ
ンシスコ・聖クララ著作集』、関西学院大学神学
部編『宣教とパンデミック』

会へ就任後、初の説教から収録してあるのだが、最初から
付度のない強気な説教に、読んでいる間中、筆者の頭には
雷鳴がBGMのように響いていた。というのも、説教にに
じみ出る説教者の厳しき、鋭さに圧倒され、人間的な憧れ
すら抱いている自分がいたからだ。説教集とは御言葉を楽し
しみ味わうことが第一だが、言葉ににじみ出た説教者の人
柄や、人生をも楽しむものだと思えてもらったような体験だ。
今も数多くの説教者がいる中、紡がれた言葉が少しずつ
時代に埋もれていってしまうことにふと寂しさをも感じて
いる。今は、多くの教会が説教を文字、録音問わずネット
に公開しているような時代だ。読者の中にもこのコロナ禍
で「推し」の説教者に出会ったという方はいないだろうか。
ぜひ、筆者にもシェアしていただきたい。ちなみに筆者の
推しの説教者だが……おっと、誰か来たようだ。（桑島）

いのち 生命との別離

おわかれ
事前医療指示書から
緩和医療に至る手引き

ミヒヤエル・デ・リッダー 著
ヴォルフガング・R・アーデ／島田宗洋 訳
横倉義武氏(前日本医師会会長、前世界医師会会長)推薦!



終末期の人体に起こる変化を、救急医療とホスピスの現場で活躍するドイツ人医師が詳しく紹介。一人ひとりの希望に沿った最期を迎えるための法的な準備を手引きする。

● 四三判・上製・270頁・定価2,420円

新しいダビデと新しいモーセの待望

イザヤ書の正典的解釈

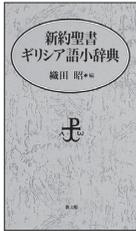
田中 光 著



イザヤ書前半の「王預言」と後半の「僕預言」におけるメシア像はどのようなものか。正典的解釈に基づき、ダビデの王とモーセの預言者への終末論的待望からイザヤ書の包括的理解を目指す。

● A5判・上製・600頁・定価7,370円

オンデマンド
待望の復刊!



新約聖書ギリシア語小辞典

織田 昭 編

編者の長年にわたる新約聖書ギリシア語原典と語学研究に基づいた、内容豊かな辞典。すべての単語に、わかる限り語源を明記。人名などヘブライ語源のものはヘブライ語を併記。動詞は新約聖書に出てくる変化形から逆引きができる。携帯に便利なポケット版。

● B6判変形・並製・686頁・定価8,250円

デ・リッダー博士の書籍、好評発売中!

わたしたちはどんな死に方をしたいのか?

高度先進医療時代における新たな死の文化の提言

ミヒヤエル・デ・リッダー 著
島田宗洋／ヴォルフガング・R・アーデ 訳



具体的な患者の実例を通して、現代の救命延命型医療の矛盾点を説得的に語りながら、「望ましい死への援助」を提案する。「避けられない死に新しい光を当て、洞察を深めた好著」(柏木哲夫氏推薦)。

● 四三判・上製・464頁・定価3,080円

わたしたちはどんな医療が欲しいのか?

人間中心医療を取り戻すための提言とその理由

ミヒヤエル・デ・リッダー 著
島田宗洋／ヴォルフガング・R・アーデ 訳



様々な背景をもつ人が運びこまれるベルリンの救急医療センター。問題山積の現場で35年のキャリアを重ねた医師が発信する、現代医療の問題点と解決の道。「すべての医療関係者に届けたい提言」(高久史磨氏推薦)。

● 四三判・上製・346頁・定価2,860円



アーバンソウルズ

黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー

オサジエラオ・ウフル・セイクウ著 / 山下壮起訳

2月25日



差別、貧困、警察暴力に包囲された黒人青年たちの救いはどこにあるか。都市の物質的・空間的荒廃から発現したヒップホップの靈性を証しする。著者はチャーチ・オブ・ゴッド・イン・クライスト牧師。ミュージシャン、映像作家としても活躍する。

◆B6変判・定価2640円

ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ

相川裕亮著 福音伝道者の政治性

(あいかわ・ゆうすけ氏は広島大学法学部助教)

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係を通じて、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼしたビリー・グラハム。主に冷戦下70年代までの思想と行動を(福音伝道者)という観点から解明した俊英の力作。

2月25日

◆四六判・定価2750円

中世キリスト教の七つの時

片山寛著

中世思想史からキリスト教の核心へ

神学と哲学、大学と修道院、疫病と社会。これらの関係の中から神についての真理を探究し、膨大な思索を紡ぎ出してきた中世キリスト教。教理と社会の相互関係史を探究し、その問題の核心に迫った興味尽きない14編。

2月22日

◆A5判・定価2750円



人間存在に内在する宗教性について

三浦永光著

人間存在の本質に迫ってその宗教性を明らかにすると共に、内村鑑三の感化を受けて鮮やかな生の軌跡を描いた三人の先達——留岡幸助、井口喜源次、黒崎幸吉の生涯をたどる。現代に求められている宗教性とは何か——。

2月15日

◆四六判・定価1750円



クィア神学の挑戦

工藤万里江著

クィアとは何か？ フェミニズムとクィアの共通性と断絶とは？ 三人の女性神学者の理論展開とその背景を精査し、クィア神学の多様な内実、その課題と可能性を展望した労作。

◆定価 4730円

クィア、フェミニズム、キリスト教



注目の既刊書

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二二年三月一日発行(毎月一回一日発行)
本のひろば 第七七号 二〇二二年三月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三三六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇一五一一六七九
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷株
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円(〒63円)
一年分三三〇〇円(送料共)